

令和6年度愛知県周産期医療協議会調査研究事業報告書

研究テーマ：愛知県下 NICU から退院した医療的ケア児の実態調査

研究者：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院小児科 中山淳、大城誠

【背景】

2021年に医療的ケア（以下、医ケア）児支援法が制定され、愛知県内でも医ケア児支援センターの設置や支援コーディネータの育成が進められている。医ケア児は年次的に増加しており、在宅移行前の主な入院施設は NICU とされている。愛知県においても全国と同様な傾向が生じていると推測されるが、その総括はなされておらず、医療的・社会的にその実態把握が必要である。

【対象と方法】

愛知県内にある周産期母子医療センター19 施設と、同施設から 2016 年度から 2022 年度の 7 年間に NICU を退室した愛知県に居住する医ケア児を対象に、excel ベースの症例調査をおこなった。

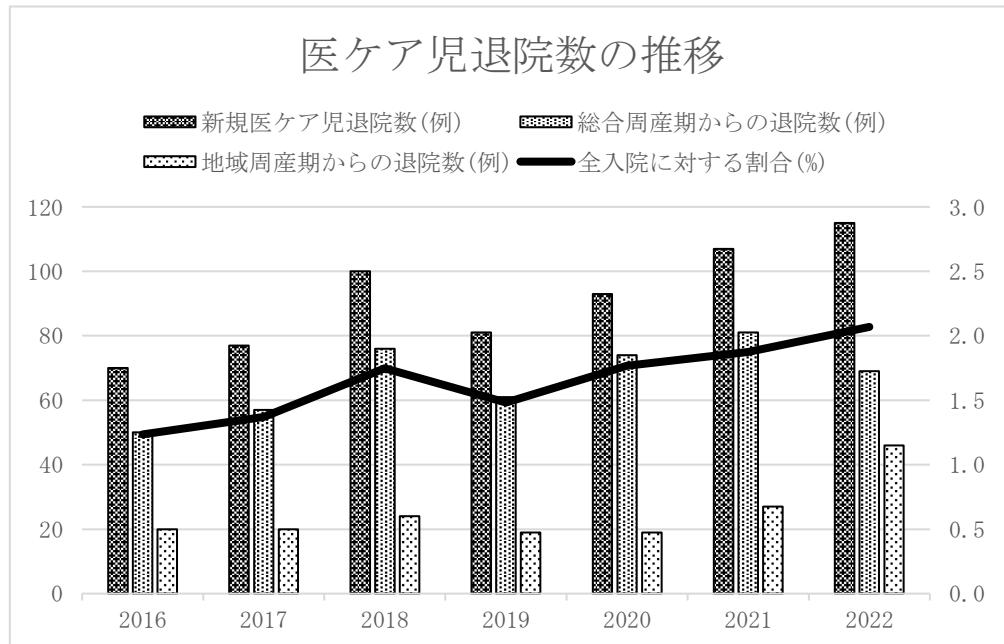
【結果】

回答施設：全 19 施設（総合周産期母子医療センター7 施設、地域周産期母子医療センター12 施設）

全入院患者数：39,004 例 全出生数（2016～2022 年）：405,720 人

新規医療的ケア児：643 例（全入院児の 1.6%、千出生当たり 1.6 人）

(1) 新規医ケア児数

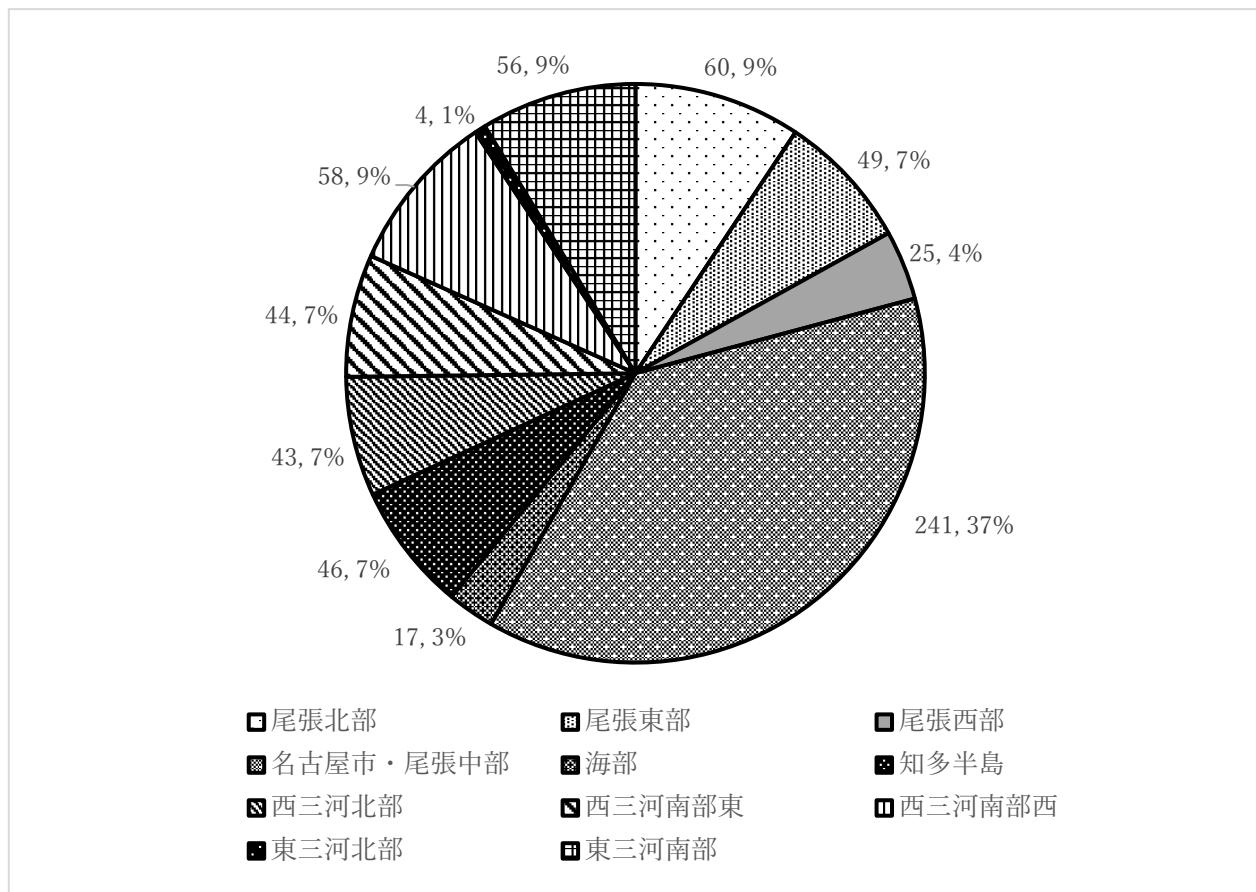


- ・医ケア児は、症例数、単位入院当たりの割合とともに増加傾向にある。
- ・2021 年以降は、地域周産期母子医療センターからの退院が増加している。医ケア児の退院支援が居住地近隣の病院へ移行している可能性が考えられる。

(2) NICU からの退室先

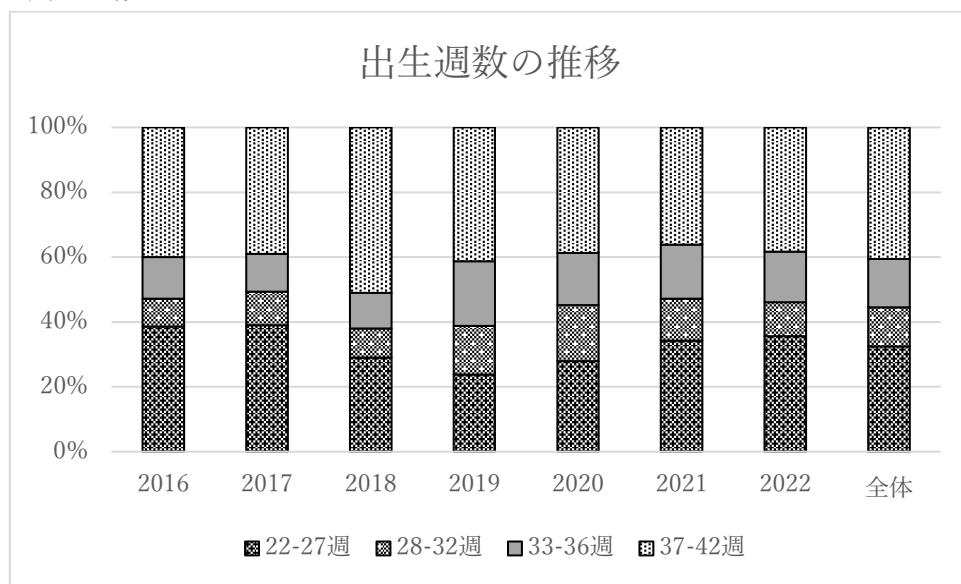
643 例中 609 例(95%)が自宅、障害児者施設 20 例(3%)、他院 15 例(2%)であった。

(3) 医ケア児の居住医療圏



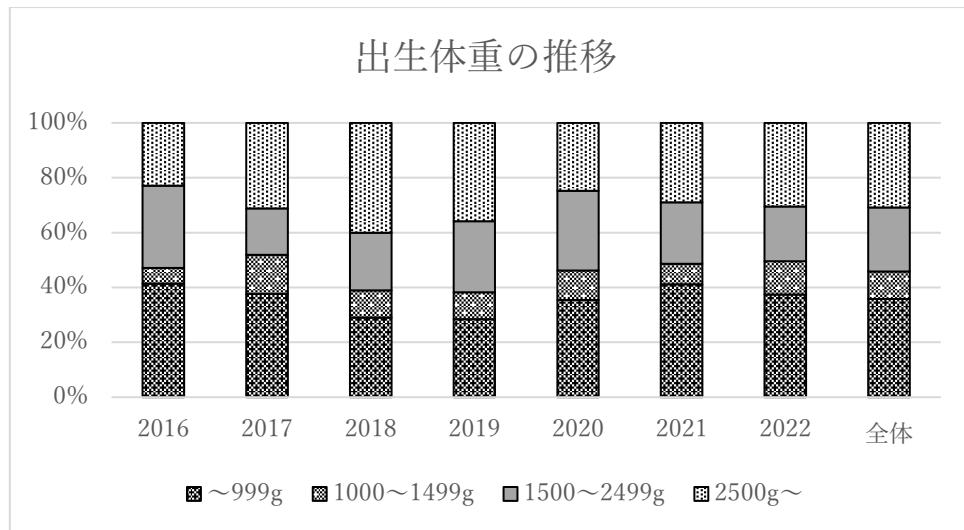
- 名古屋市・尾張中部 241 例(37%)、尾張北部 60 例(9%)、西三河南部西 58 例(9%)、東三河南部 56 例(9%)の順であった。

(4) 医ケア児の出生週数



- 37~42 週の満期産児が 41%と最多で、22~27 週未満(32%)、33~36 週(15%)、28~32 週(12%)の順で、年度による明らかな変化はなかった。

(5) 医ケア児の出生体重



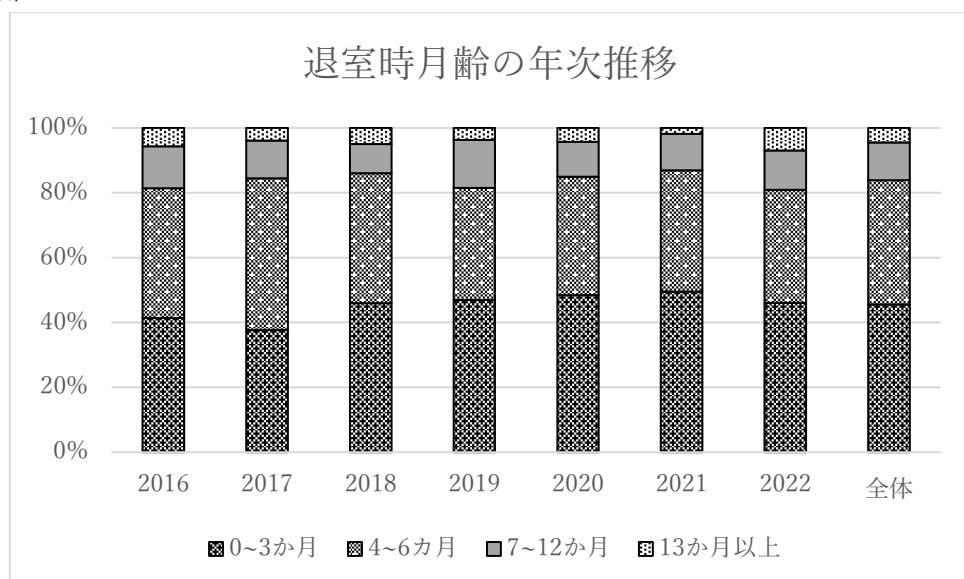
- 999g 以下の超低出生体重児が 36%と最多で、2500g 以上(31%)、1500~2499g(23%)、1000~1499g(10%) の順で、年度による明らかな変化はなかった。

(6) 各年度の千出生当たりの新規医ケア児数（出生数は人口動態統計より各年のデータを使用）

出生体重	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	全体
~999g	145.7	166.7	165.7	116.2	183.3	257.3	254.4	181.7
1000~1499g	14.1	37.9	39.7	33.3	41.5	32.9	60.6	36.5
1500~2499g	3.6	2.4	3.8	4.1	5.7	4.9	5.1	4.2
2500g~	0.3	0.4	0.7	0.6	0.5	0.6	0.8	0.5
全体	1.1	1.2	1.6	1.4	1.7	2.0	2.2	1.6

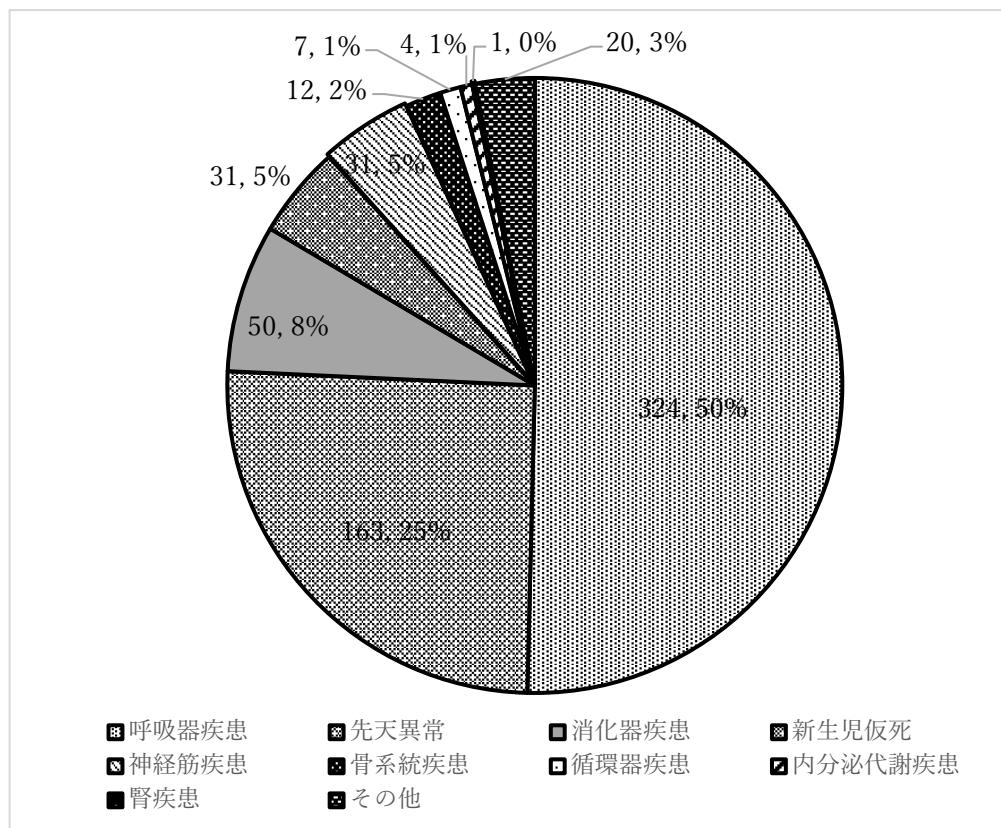
- 千出生当たりの新規医ケア児数はいずれの体重群においても増加傾向にあるが、~999g、1000~1499g の児において顕著であった。

(7) 退室時月齢



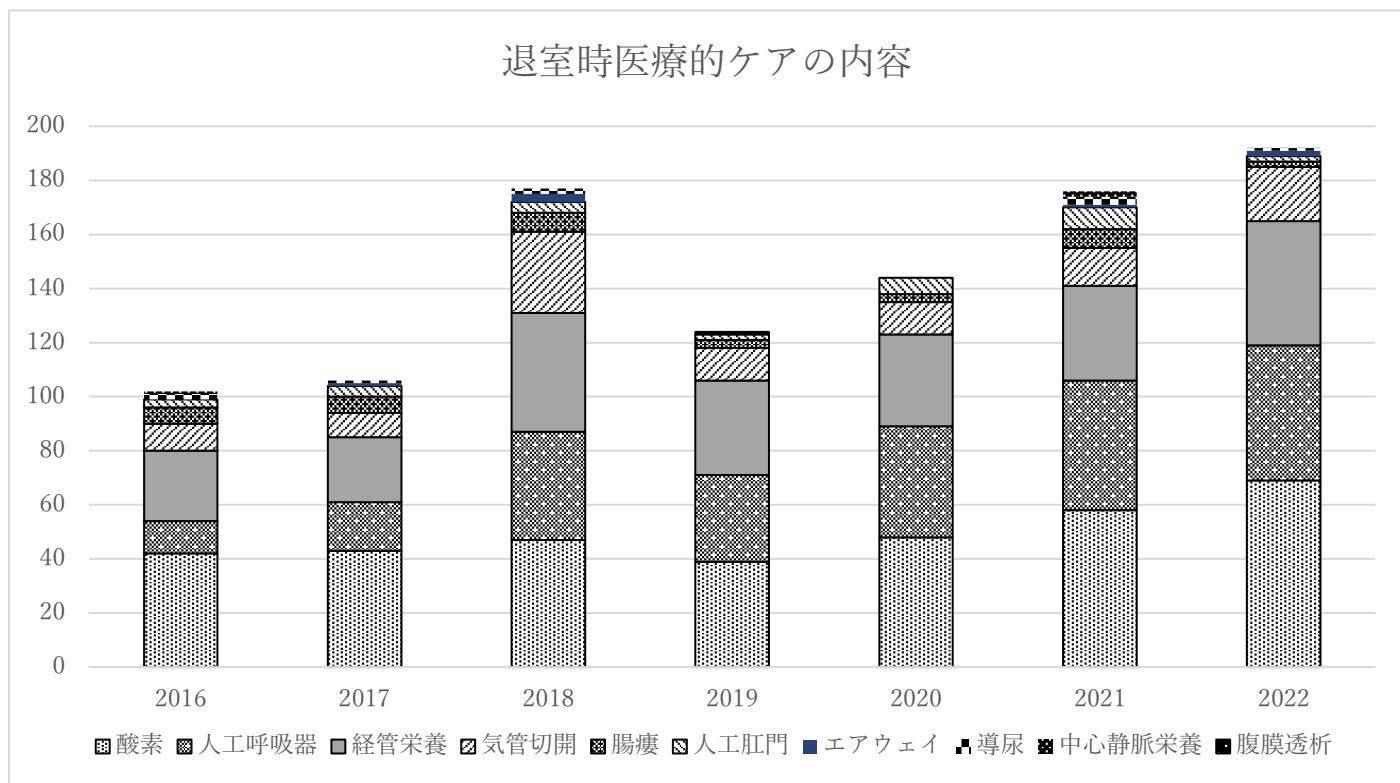
- 退室時月齢に明らかな年次変化はなく、全体の 80%以上が生後 6 か月までに退室していた。退室時月齢 13 か月以上の児は、29 例(4%) であった。

(8) 退室時疾患分類



- 退室時疾患分類は、呼吸器疾患(50%)、先天異常(25%)、消化器疾患(8%)、新生児仮死(5%)の順であった。

(9) 退室時医ケア内容



- 近年酸素、人工呼吸器の処方が増加していた。一方で気管切開の増加は軽度に留まった。
- 人工呼吸器の処方数は、経管栄養を凌駕するようになっている。

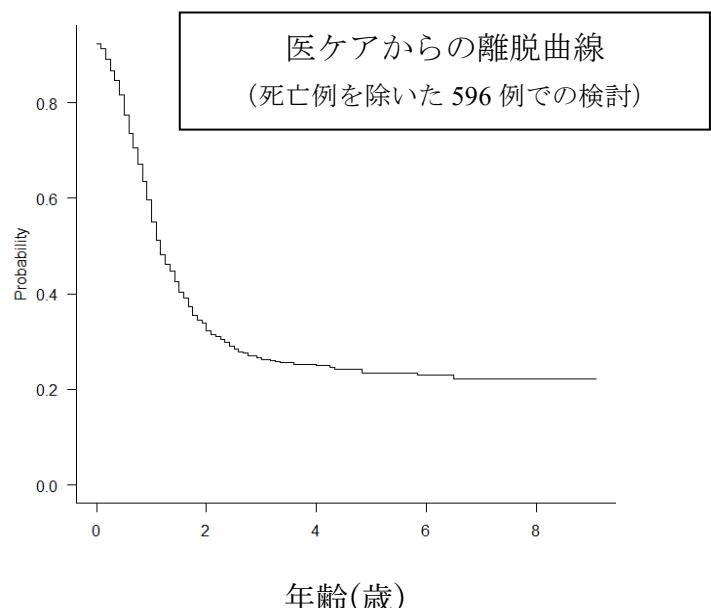
(10) 退室時の障害福祉サービスにおける医療的ケアスコア

医ケア（基本スコア）	症例数
人工呼吸器 (10)	241
気管切開 (8)	107
エアウェイ (5)	7
酸素 (8)	346
在宅中心静脈栄養 (8)	3
経管栄養 (8)	244
腸瘻 (5)	34
腹膜透析 (8)	1
導尿 (5)	9
人工肛門 (5)	29

- ・推定医療的ケアスコア 32 点以上（医療的ケア区分 3）の児は、79 例（12.2%）
- ・推定医療的ケアスコア 16～31 点（医療的ケア区分 2）の児は、154 例（24.0%）
(推定医療的ケアスコアは、人工呼吸器に対して見守りスコアとして+2 点、気管切開に対して吸引処置として+8 点を加えて算出した。実際のスコアはさらに高いと考えられる。)

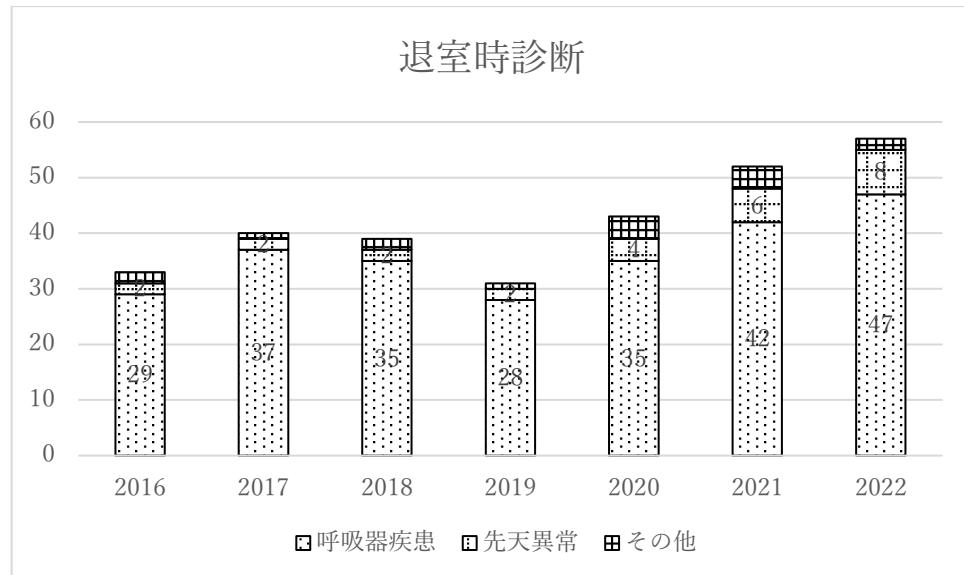
(11) 医ケアの転帰

- ・フォローアップ期間は、中央値 42 か月（四分位範囲 25–71 か月）であった。
- ・643 例中 47 例(7.3%)がフォローアップ中に死亡し、基礎疾患は先天異常 31 例(66%)が最多であった。
- ・44 例(6.8%)では、フォローアップ中に新たな医ケアが導入された。
- ・1 歳で約 41%、2 歳で約 65% の児が医ケアから離脱した。
- ・3 歳以降の離脱は少数であった。



(12) 極低出生体重児(出生体重 1500g 未満の児、以下 VLBW 児)における医ケアについて
(近年の医ケア児増加傾向に対する考察)

- ・(6)の通り VLBW 児において出生当たりの新規医ケア児数が増加している
- ・呼吸器疾患（慢性肺疾患や気道疾患）、先天異常による医ケア導入が増加している



- ・医ケア内容は、気管切開を伴わない人工呼吸器導入、すなわち持続陽圧呼吸 (CPAP) やネーザルハイフロー療法といった非侵襲的呼吸管理の導入例が増加している。

医ケア内容	2016～2019 年度	2020～2022 年度
在宅人工呼吸器（気管切開あり）	11 例	6 例
在宅人工呼吸器（気管切開なし）	11 例	26 例
酸素のみ	101 例	90 例

- ・VLBW 児において、生後 13 か月以降に退院となった長期入院児は増加していない。

退院月齢	2016～2019 年度	2020～2022 年度
6 か月以下	107 例	105 例
7～12 か月	14 例	15 例
13 か月以後	8 例	4 例

【まとめ】

今回の調査研究を通じて、近年の愛知県下周産期母子医療センターから退室した医ケア児の実態について詳細な情報が得られた。全国的には 19 歳以下の医ケア児者総数は横ばいになっていると推定されているが、愛知県内の周産期センターから退院する医ケア児はまだ増加傾向にあることがわかった。

今回のデータは人口ベースで得られた貴重なデータである。医ケア児は社会的にも注目されており、愛知県内の医ケア児の動向を把握するためには、その大きな発生源である周産期母子医療センターからの発生例について継続して情報収集する必要がある。

(文責 中山淳)